

会長： 本日は、大変ご公務忙しい中、「対話と実行」の場を設定いただき、どうもありがとうございます。

開催にあたりまして、本クラブの今までの経過を簡単に説明したいと思います。

このクラブは現在、法人18社、個人6者、24の農業者で組織されています。平成4年6月に農林水産省から、今後の農業施策の推進方向について示した新しい食料・農業・農村政策の方向が公表され、この中で農業経営の法人化推進が経営体の育成手段の1つとして明記され、農業法人が注目を浴びました。これを契機に県内の農業法人や農業法人志向農業者を対象に自主的な勉強会を開きました。この時に集った農業法人経営者から、「県内に自分達の知らないすごい農業経営者がたくさんいる」、「地域も経営作物も違うのに、農業経営の話を出すと共感することがたくさんある」、「このような農業経営者と定期的に情報交換をしていきたい」という声が出され、平成6年5月10日に県での農業法人組織としては全国で2番目に任意組織として設立されました。

本クラブは、これまでに各種研修会、商談会、イベント参加、先進地視察などいろいろな活動を行ってきました。その中で会員に評判の良かった内容は、他県農業法人協会の視察、情報誌「アグリマンが行く」、これは、自分がここのクラブに入った頃に発刊された本でした。僕もそれを見て、「あ、ものすごいメンバーがいるんだな」ということを知ることができました。そのほか中期事業計画策定研修会、大手通販業者と連携した頒布会方式農産物販売、最近では、後継者従業員育成研修会、商談会参加などは、会員には大変好評ですが、会員が最も本クラブに求めているのは、会員同士の情報交換です。

「直売所を始めた」、「全国チェーンのレストランに農産物を納品し始めた」、「外国で農産物の生産を始めた」など、会員それぞれが競うかのように画期的な取り組みを次々と行い、その情報を研修会など、会員が集るたびに開かれる懇親会で交換します。これらの結果、「従業員研修を通じて職員が育ち、自主性を持ち、自ら考えながら農作業を行うようになった」、「商談会で取引が成立し都市部にも販売先が増えた」、「加工業者を紹介してもらい加工品を開発した」など、様々な成果があがっています。これらのことは、関係者、団体の皆様のご協力により達成できたと思っています。今後は、本クラブなどの活動を県下に広めていき、元気のある仲間をたくさんつくり、お互いに切磋琢磨し、一層経営を磨いていき、高知県全体の活性化を図りたいと考えています。